

日本の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

市場の動向

日本株式市場の代表的な指数である東証株価指数(TOPIX)は、8日比で1.22%上昇しました。

日本株式市場は、欧米の金利上昇(価格は下落)やギリシャ債務問題などの不安材料により下落する局面もありましたが、為替市場の落ち着きと欧米株式の上昇が買い安心感となり、日本株式市場は好調に推移しました。企業の2014年度決算発表は実績、予想共に総じて好調であり、企業業績の好調継続が確認されつつあることも、市場全体の押し上げ要因となりました。週間では上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 20日 GDP(国内総生産、1-3月期、一次速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

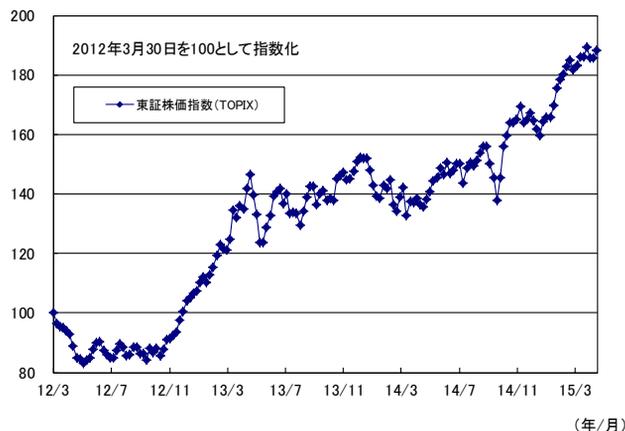
先週の騰落率

1.22%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数(TOPIX)の指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界の株式市場

市場の動向

海外株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI-KOKUSAI指数は、8日比円ベースで、0.36%上昇しました。

米国株式市場(現地通貨ベース)は、4月の米小売売上高や米鉱工業生産指数が市場予想を下回り、米景気減速懸念が広がる中、早期利上げ懸念が後退し、米ドルが主要通貨に対して下落したことなどを好感し、小幅に上昇しました。

欧州株式市場(現地通貨ベース)は、ギリシャ支援を巡る交渉に進展が見られなかったことや、ユーロが対米ドルで上昇したことを受けて、下落しました。

アジア(日本を除く)オセアニア株式市場(現地通貨ベース)は、中国人民銀行(中央銀行)による政策金利の利下げや、緊縮色を弱めた2015年度のオーストラリアの政府予算案などを好感し、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 19日 EU(欧州連合)27カ国新車登録台数(4月)
- 19日 米住宅着工件数(4月)
- 21日 ユーロ圏製造業・サービス業PMI(購買担当者気指数、5月)
- 22日 米CPI(消費者物価指数、4月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

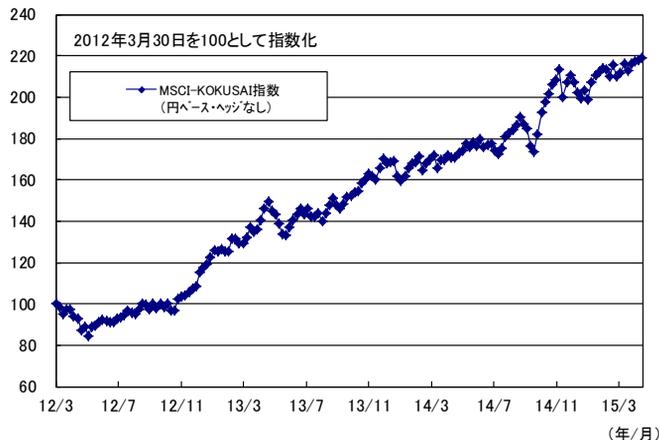
先週の騰落率

0.36%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



<指数出所>FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の債券市場

市場の動向

日本の債券市場動向を表す代表的な指標であるNOMURA-BPI総合は、8日比で0.16%上昇しました。
日本債券市場は、4月の米雇用統計が低調な結果となり、米景気見通しに悲観的な見方が広がったことから、上昇して始まりました。その後は、10年債入札が低調な結果となったことや、海外金利上昇(価格は下落)したことを受け、下落に転じました。しかし、30年債入札や日銀買入オペにおいて一定の投資家需要が確認されたことから、週末にかけて日本債券市場は再び上昇に転じました。週間では上昇しました。
長期国債の指標となる10年国債は8日比で低下し、0.40%となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 20日 GDP(1-3月期、一次速報値)
- 22日 日銀金融政策

など

| | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 変化幅 |
|-------------|----------|-----------|--------|
| 日本10年国債利回り* | 0.42% | 0.40% | -0.02% |

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

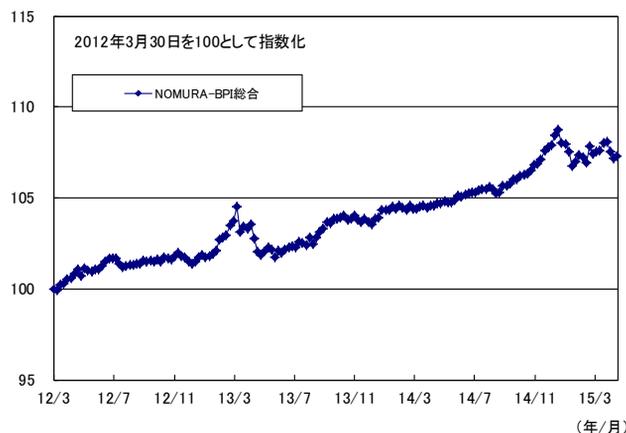
先週の騰落率

0.16%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



| NOMURA-BPI総合 | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 騰落率 |
|--------------|----------|-----------|-------|
| | 362.38 | 362.96 | 0.16% |

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

世界の債券市場

市場の動向

世界債券市場の動きを示す代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、8日比円ベースで、0.42%上昇しました。
米債市場(現地通貨ベース)は、5月の米ミシガン大学消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことなどを背景として、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。
欧州債市場(現地通貨ベース)は、1-3月期のフランスやイタリアの実質GDP成長率が前期比で市場予想を上回ったことなどを背景として、ドイツ国債利回りは上昇(価格は下落)しました。
為替は、8日比で円/ドルレートは円高・ドル安、円/ユーロレートは円安・ユーロ高となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 19日 独ZEW景況感指数(5月)
- 19日 米住宅着工件数(4月)
- 20日 FOMC(米連邦公開市場委員会)議事録
- 21日 ユーロ圏製造業・サービス業PMI(5月)
- 22日 独Ifo景況感指数(5月)
- 22日 米CPI(4月)

など

| | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 変化幅 |
|--------------|----------|-----------|--------|
| 米国10年国債利回り* | 2.15% | 2.14% | -0.01% |
| ドイツ10年国債利回り* | 0.55% | 0.62% | 0.08% |

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

0.42%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



| シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 騰落率 |
|------------------------------------|----------|-----------|--------|
| | 466.97 | 468.93 | 0.42% |
| 円/ドル | 119.77円 | 119.30円 | -0.39% |
| 円/ユーロ | 134.36円 | 136.49円 | 1.59% |

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。 ・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

J-REIT市場

市場の動向

J-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は、8日比で0.60%上昇しました。国内株式市場が上昇したことなどが背景にあります。

三鬼商事が発表した4月時点の東京都心5区の平均空室率は5.34%となり、前月の5.30%から0.04ポイント上昇しました。4月は拡張移転や統合などに伴う成約の動きがあったものの、大規模ビル2棟の供給や解約の影響などが見られたことから、同地区における空室面積がわずかに増加しました。また、同地区の平均賃料は17,257円となり、前年同月比で4.87%の上昇、前月比で0.36%の上昇となりました。前年同月比では11ヵ月連続、前月比では16ヵ月連続の上昇となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 20日 GDP(1-3月期、一次速報値)
- 22日 日銀金融政策

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

0.60%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



| 東証REIT指数(配当込み) | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 騰落率 |
|----------------|----------|-----------|-------|
| | 3,206.39 | 3,225.66 | 0.60% |

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界のREIT市場

市場の動向

世界REIT市場(S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み))は、8日比円ベースで、1.03%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、9日までの週の米新規失業保険申請件数が市場予想に反して前週比で減少したことや、米10年債利回りが週末にかけて大きく低下(価格は上昇)したことなどから上昇しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、1-3月期のユーロ圏実質GDP(域内総生産)成長率が、前四半期を上回ったことなどが背景となり上昇しました。

豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、豪株式市場の上昇に連れて上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 19日 独ZEW景況感指数(5月)
- 19日 米住宅着工件数(4月)
- 20日 FOMC議事録
- 21日 ユーロ圏製造業・サービス業PMI(5月)
- 22日 独Ifo景況感指数(5月)
- 22日 米CPI(4月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

1.03%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



| S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み・円ベース) | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 騰落率 |
|------------------------------|----------|-----------|--------|
| | 907.54 | 916.87 | 1.03% |
| 円/ドル | 119.77円 | 119.30円 | -0.39% |
| 円/ユーロ | 134.36円 | 136.49円 | 1.59% |

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービスズ エル エル シーの所有する登録商標です。

新興国の株式市場

市場の動向

新興国株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、8日比円ベースで、0.46%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、利下げが発表されたことや、深センと香港市場の相互乗り入れに対する期待が高まったことなどから、上昇しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、ギリシャ債務問題への懸念が高まったことや、金利上昇などを背景に欧州株が下落したことなどから、下落しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、中国で利下げが発表されたことや、大手エネルギー企業の決算に対する楽観的な見方が広がったことなどから、上昇しました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、中国で利下げが発表されたことや、金やプラチナなど商品市況が上昇したことなどを好感して、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 20日発表 南アフリカ小売売上高(3月)
- 21日発表 中国HSBC製造業PMI(5月、速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

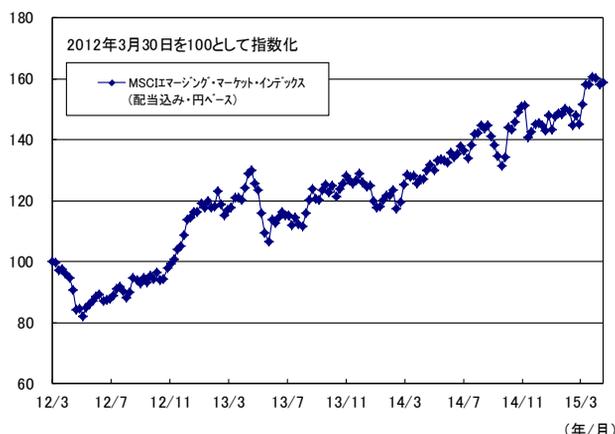
先週の騰落率

0.46%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



| MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース) | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 騰落率 |
|-------------------------------------|----------|-----------|-------|
| | 2,062.82 | 2,072.27 | 0.46% |

<出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

新興国の債券市場

市場の動向

新興国債券市場全体の動きを示す代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、8日比円ベースで、1.06%上昇しました。

ポーランドでは、大統領選挙で最大野党が擁立した候補が与党の現大統領の得票率を上回ったことや、当該2候補者で決選投票が行なわれることになったことなどから、政治の不透明感が増しました。このような投資環境の中、同国の債券指数は下落しました。

インドネシアでは、低調な国内の経済活動を背景に、前週に政府高官から緩やかな利下げを示唆する発言があったことを受け、同国の債券指数は上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 19日 インドネシア金融政策
- 20日 南アフリカCPI(4月)
- 20日 トルコ金融政策
- 21日 中国HSBC製造業PMI(5月、速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

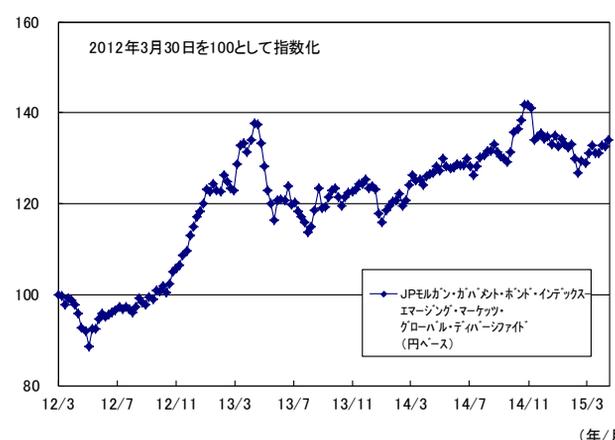
先週の騰落率

1.06%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2015年5月15日



| JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) | 2015/5/8 | 2015/5/15 | 騰落率 |
|---|----------|-----------|-------|
| | 272.17 | 275.05 | 1.06% |

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (JP Morgan Government Bond Index - Emerging Markets Global Diversified) は、J.P. Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

■投資信託に係る費用について

2015年5月現在

| | |
|---|--|
| <p>ご購入時手数料 《上限4.32% (税込み)》</p> | <p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p> |
| <p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816% (税込み)》</p> | <p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じたかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p> |
| <p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p> | <p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p> |
| <p>その他の費用</p> | <p>上記の他に、「組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p> |

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。